



ウペペサンケ山からの展望

奥は富良野岳からトムラウシ山へとつづく十勝連峰
右手手前に聳えるのはニペソツ山

01. 序章

北海道山紀行 2011

今年で北海道山紀行は5年目になる。例年は雪解けの花を求めて6月中旬から7月にかけて出かけていたのだが、今年は7月いっぱいいろいろ忙しくて都合がつかず、結局トップシーズンの8月になってしまった。トップシーズンは人が多い上に交通費をはじめいろいろな費用が高くなり、おまけに花が殆ど終わってしまっていて、決して好ましくない。

今年は東日本大震災の影響で、本州で東北を回る予定の人たちが北海道へ流れたのと、北海道の人たちが本州へ渡るのを避けて道内で夏休みを過ごすことにしたとのことで、北海道は混んでいた。道の駅はどこもキャンピングカーが一杯で、北海道のナンバーをつけた車が多かったのも例年と少し違うところだった。

今年の北海道の夏は、8月前半までは晴天続きで気温が高くて蒸し暑く、連日気温35度もある本州並みの暑さが続いた。中旬・お盆の頃からは天候不順となり、涼しくはなってきたが来る日も来る日も曇か雨で、山に登れる日が殆どなかった。

前半は大汗をかきながら一週間で5山に登ったが、後半は十日でやっと3山、そのうちの1山は風雨が強く途中で引き返さなければならなかった。しかし他の2山は、その日だけ快晴という日を見事読み当て、今年の山紀行を飾るのに相応しい素晴らしい山行だった。

出発前の準備

・5年目ともなると、準備のマニュアルも充実しており、車の改装も昨年と同じなのであまり手間隙がかからなかった。ただ直前まで公私入り混じっての雑用に追われ、準備の時間を工面するのに苦労した。

宿泊地と道の駅

・今年も殆ど道の駅での車中泊で過ごした。ただ大きな山に登った後は畳の上でゆっくりしたいのでニペソツ山の後に糠平の民宿、芦別岳の後には、かなやま湖保養センターに宿を取り、温泉に浸かってゆっくり休養をとった。

今年の道の駅はどこでも大型のキャンピングカーが多く、今までと少し様相が違っていた。夏休みなので家族で出かけている人が多いからか、キャンピングカーのブームが来たからなのか分からないが、とにかく多かった。キャンピングカーは家族単位だからわれわれとはあまり交流しないし、キャンピングカー同士で交流し、今までのように隣り合わせた車と山の話をしたり情報の交換をしたりという道の駅での楽しさがなかった。北海道には各地に立派なオートキャンプ場が整備されているのだから、道の駅でなくオートキャンプ場へ行ってもらいたい。特に今年感じたのは、目的を持たずに旅している人が多い。去年までは、山に登る、釣をする、カヌーなど川遊びをする、温泉めぐりをする等、みんな何らかの目的を持って旅していたので、いろいろな話が出来て楽しかったが、今年は目的なしに車で動いている人ばかりで、道の駅にたむろして時間を潰しているだけ。話が合わない。これも夏休みということだからだろうか。

登った山と回ったルート

・5年目ともなると北海道の目ぼしい山はほとんど登ってしまっているので、今年は今まで漏れていた山と、少々敬遠していた山を目指した。

・余市岳、ニセコアンヌプリ、空沼岳、尻別岳などの手軽な山と、今までハードな山として敬遠気味だったニペソツ山、ウペペサンケ山、芦別岳にトライし、それに以前霧の中を手探りで登ったチセヌプリを再度登り、以上8山に登った。

この他に毎年登っている大雪山山系の山と、暑寒別岳の箸別コース、それとまさに三角錐の形をした黄金山を計画したが、雨続きで時間が無くなったためこの3山は割愛した。